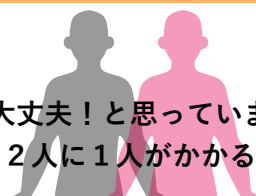


未来のためにできること がん検診を受けよう！

自分は大丈夫！と思っていないですか？
がんは2人に1人がかかる病気です



がんは、日立市の死因の第一位です。また、日本人が、がんにかかる確率は、2人に1人とされており、がんは私たちにとって、とても身近な病気です。今回は、私たちが未来のためにできることを日立市地域医療協議会がん対策調査研究専門委員会の先生方に伺いました。がんの早期発見のために検診を受けましょう。

問合せ 健康づくり推進課 TEL 21-3300

がん検診は必要な外出です

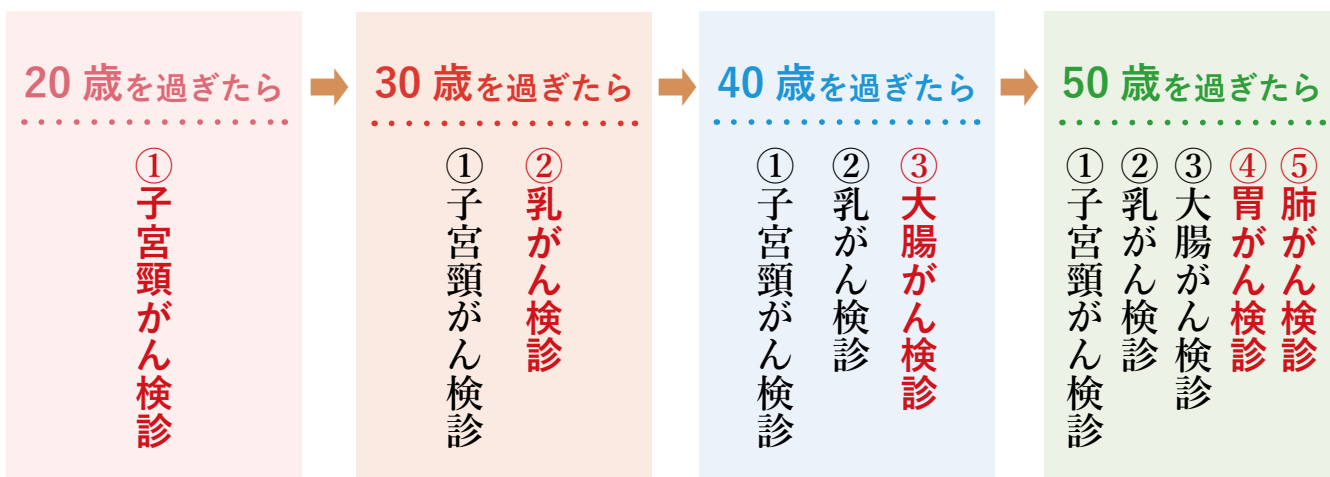
令和2年度にがん検診を受けた日立市民は前年の半分（49.6%）に減りました。全国でも早期がん発見の減少がみられ、進行がんの増加が心配されています。正しい知識と少しの行動が、あなたの人生を左右することもあります。今年の検診を予約しましょう。



委員長

なわ内科・呼吸器クリニック
名和 健 医師

まずは、自分が受けることができる検診を知ろう！



* 肺がん検診は、胸部CT検診：50歳以上、胸部レントゲン検査：65歳以上が対象となります。

令和4年度がん検診の申し込みについては、4月5日号市報でお知らせします。

* 胸部レントゲン検査、肝炎ウイルス検診、前立腺がん検診は、5月5日号市報でお知らせします。

次のページでは、日立市地域医療協議会がん対策調査研究専門委員会の委員になっていただいている医師から、それぞれのがんについてメッセージをお伝えします。

20 歳を過ぎたら子宮頸がん検診

子宮頸がんは95%がHPV（ヒトパピロマーウイルス）が原因で、HPVは性交渉により感染することが知られています。予防には、一次予防としてHPVワクチン接種、二次予防として検診（市では、子宮頸部細胞診を実施しています）があり、HPVワクチンはこの4月から定期接種としての積極的勧奨が再開されますが、100%予防できるわけではありません。検診を受けることにより、早い段階で発見できれば、子宮を残し、妊娠・出産することも可能です。



福地レディースクリニック
福地 秀行 医師

30 歳を過ぎたら+ 乳がん検診

乳がんになる人は30代から増え始め、ピークは40代後半から70代まで長く続きます。早期発見のために、自分の乳房に関心を持っていつもと変わらないか観察することと、乳がん検診を受けることが大切です。市では30歳から65歳まで毎年超音波検査と40歳からの隔年マンモグラフィを行っています。自分でチェックをし、検診を上手に利用して早期発見・早期治療を心がけましょう。「あら？」と思ったら医療機関へ。



おおたしろクリニック
太田代 紀子 医師

40 歳を過ぎたら+ 大腸がん検診

コロナ禍で、がん検診の受診者が減少し、がんの手術件数も減少していることが報告されています。症状が出てから受診し大腸がんと診断された患者さんから、「あの時検診を受けておけばよかった」と言われることも多くなりました。検診で診断された大腸がんは、症状が出てから診断された大腸がんよりも経過が良いことも分かっています。40歳を過ぎたら大腸がん検診を受けましょう。



日立総合病院
鴨志田 敏郎 医師

50 歳を過ぎたら+ 胃がん検診

定期的検診が、市民の皆さんの生活の質を向上させることを説明します。早期癌は、粘膜癌と粘膜下層癌に分けることができます。より早期の粘膜癌は転移の可能性がほとんどないため、多くの症例では、胃や食道を外科的に切除しなくても根治可能な、内視鏡的粘膜下層剥離術で治療することができます。令和2年度から開始された日立市胃内視鏡検診でも、同年度に発見された癌の外科的手術は2例のみで、4例は内視鏡的粘膜下層剥離術で根治されました。

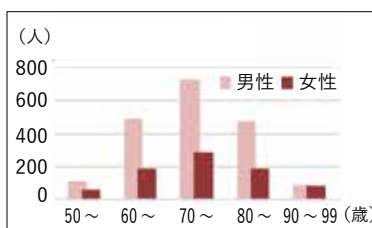


日立総合病院
平井 信二 医師

50 歳を過ぎたら+ 肺がん検診

* 胸部CT検診：50歳以上、胸部レントゲン検査：65歳以上

茨城県がん登録事業報告によると、最新の2018年県内肺がん罹患患者数（新たに診断された人数）は2,717人です。60代から80代までで全体の85%を占め、男性は女性の2.5倍です。検診を受診し、治る肺がんの段階で見つけましょう。



県内の肺がん罹患患者数



日立総合病院
遠藤 勝幸 医師